

# 総括研究報告書

1. 研究開発課題名： 骨粗鬆症性椎体骨折に対する保存的初期治療の指針策定
2. 研究開発代表者： 国立大学法人東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科  
整形外科学分野 教授 大川 淳
3. 研究開発の成果

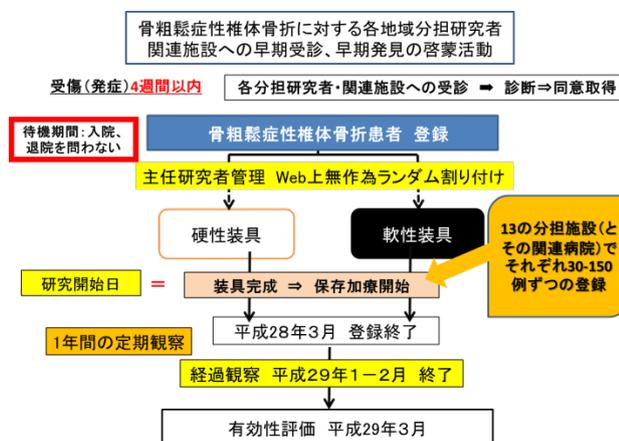
平成 26 年度より全国 12 大学病院の分担施設による症例登録を、各分担施設倫理委員会承認後、随時始めてきた。また、それぞれの分担施設が各地域に持つ関連施設へ積極的に呼び掛けて研究への協力参加が得られた。平成 27 年度からは分担研究者として福島県立医科大学が加わり、特に東北地域での患者収集を推進した。最終的に、全国 141 施設、351 名の医師による参加協力体制を敷くことができた。

症例記録管理用患者登録ファイルを作成し配布済み。また、装具装着のコンプライアンスを上げるため、コルセット手帳を作成、各患者に配布してコンプライアンスの上昇に努めた。

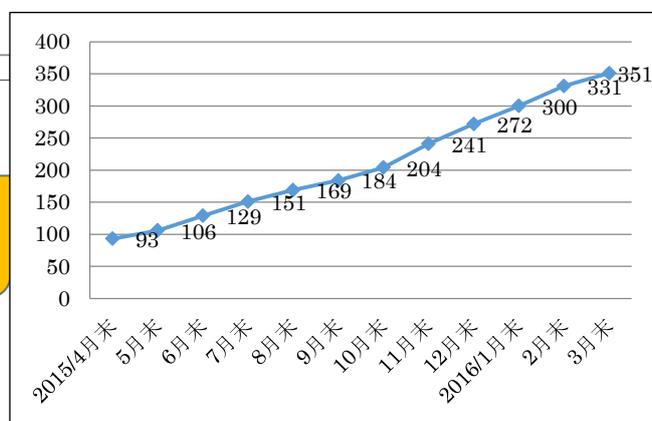
社会活動として、広く世間への啓蒙を行うため、作成したポスターの全国への配布と、市民公開講座を開催（平成 28 年 3 月 東京医科歯科大学）し、400 名を超える参加者があった。

本研究患者登録数は 351 例：硬性 175 例、軟性 176 例（医科歯科大学 88、杏林大学 67、大阪市立大学 61、浜松医科大学 48、新潟大学 17、聖マリアンナ医科大学 16、日本大学 14、福島県医科大学 11、北海道大学 9、北里大学 8、山梨大学 7、久留米大学 5、高知大学 0）となった。なお、研究中止、脱落症例が 19 例（5.4%）にみられた。

今後は、1 年間の経過観察期間を持ってデータ・画像収集を行い、画像専門家、統計専門家の介入のもと、解析を行う。脱落症例をできる限り防止して、より多くの症例での最終解析を行う。高知大学は登録が困難であったため、画像解析を依頼することとした。



<研究計画スケジュール>



<平成 27 年度 月別登録数 経過>

## 4. その他

### 今後の予定

平成 28 年度 全ての症例の 1 年経過観察を終了予定。

- ・ Web で登録された調査項目 データの解析
- ・ 画像については第三者の評価者（整形外科医、放射線科医）に依頼し 画像解析
- ・ 統計学的検討については、分担研究者である統計専門家にて 統計処理

それらを総合して、骨粗鬆症椎体骨折に対する我が国の標準的保存初期治療法の指針を策定する。